



田中 幅広い専門分野の方々が集まって、すでにある社会インフラをこれからどうすれば良いか、また暮らしやすさ、住みやすさを感じるための社会資本の在り方とは何かについて議論が進められています。

市長 今ある道路や橋、上下水道といったインフラをどのように維持管理し、そして人口の減少や高齢化が進む中で、これからいかに使いやすいものにしていくかということは、地方にとっても、とても重要なことですね。

東京から見たふるさと津

市長 最近のふるさと津について、どのようなことに注目をされていますか。

田中 高校卒業後、上京したばかりのころは、広い世界を見たいという気持ちが強かったのですが、歳を重ねるたびに津市の良さやふるさとの素晴らしさを実感するようになり、ふるさと津とのつながりが年々強くなってきたように思い

ます。若い人たちが主体性を持って、さまざまなことに関わり、そのノウハウを持ってふるさと津が今以上に元気なまちになるよう活躍してほしいですね。最近では、東京や神奈川出身の若者が旅行や仕事などで三重に来て、そのまま住んでいるという例も増えています。

市長 若い人にとっても魅力のある地域づくりが必要ですね。どのようなことがポイントだと考えられますか。

田中 仕事の間があるということが重要ではないでしょうか。津市にはもともと優良な企業がたくさんありますし、市内の企業誘致もずいぶん進んでいると聞いていますので、興味の持てる仕事があると思います。

市長 近年では、製造業や研究開発など多様な企業の進出が進んでおり、先日も庄田工業団地へベルギーに本社がある企業の進出が決まりました。この会社では東京に営業のごく一部だけを残して、本社ごと津市に移転されるとのことで、情報化が進んだ今、地方に本社を置き、ビジネスを展開していけることとなります。



田中 グローバル企業というのは、そういったところに先見の明がありますので、これからも同じように最先端の動きをする企業が増えていくと思います。

市長 女性が働きやすい環境について考えると、やはり子育て支援の充実が求められていますね。

変わりゆく中心市街地(三重会館前交差点)



昭和30年頃



現在